

量子生態学図書資料 寄贈団体名	サイトアドレス
特定非営利法人ドネーションシップわかちあい	https://donationship.org/enquiry
つなごう命の会	https://phoenixpmy.wixsite.com/houshanou-kougai/contact
一般社団法人リボーン	https://rebornhimeji.jimdofree.com/
ふくしま共同診療所医師連絡会	
3.11 甲状腺がん子ども基金	https://www.311kikin.org/
原子力資料情報室	https://cnic.jp/
によきによきプロジェクト	https://nyoki2pj.com/lp/info_yomitokibook/
井戸川裁判（福島被ばく訴訟）を支える会	https://idogawasupport.sub.jp/admission.html
NPO法人みんなのデータサイト	https://minnanods.net/
さよなら原発中津川の集い	
NPO きらきら発電・市民共同発電所	http://kirakirahatuden.com/
原子力市民委員会	https://www.ccnejapan.com/
乳歯保存ネットワーク	https://www.hahainc.jp/index.html
那須希望の砦	http://nasutoride.jp/
ひだんれん「原発事故被害者団体連絡会」	https://hidanren.blogspot.com/

福島第一原子力発電所の災害事故時、市民と科学者の内部被曝問題研究会が設立され、野上昭治・野上倫加が個人参加しました。14年を経過した2025年に解散が決まり、保有資産の分配先が会員推薦されました。弊社代表は自社を自薦図書寄贈費用とし分配金を頂くことが出来ました。この費用により、量子生態学関連図書を寄贈した団体のリストです。

市民と科学者の内部被曝問題研究会 資産有効活用による、図書類寄贈先の皆様へ

.....

初めまして。

先般は突然メールやFAXでご連絡を申し上げ、失礼致しました。

栃木県の、株式会社ソウルリバースバンキングと申します。

先にご案内した寄贈品、量子生態学図書類をお送り致します。

弊社は量子生態学関連事業を展開しておりますが、既存科学界に無い概念でどこからも理解を得られず、事業のお引き立てはほぼ皆無です。またこの学門は今現在、日本中で拒絶されております。けれども量子生態学が無ければ世界はあらゆる問題を解決できないと確信しており、理論を周知すべく営業しますが、ほぼ拒絶で資金難が続き、途方に暮れる日々というのが実情です。

そんな中、原発事故後間もなくに弊社役員が個人参加していた、市民と科学者の内部被曝問題研究会（ACSIR）様で資産有効活用の募集がありました。すっかり存在を忘れておりましたがご案内をいただき、量子生態学周知のために弊社の書籍資料を寄贈する費用を調達しようと思いつき、弊社を自薦しました。その結果資産分配を頂くことができ、この資金を使い、皆様へ図書を寄贈させていただく次第です。

つきましては別紙に、皆様に知っていただきたい量子生態学の要点をまとめました。書籍等に先駆けて要点をご覧いただくと、テキスト類の内容が理解しやすいと思います。

さて、弊社は量子生態学研究の過程で、「自然界には人間が悲しむことを許さないシステムが組み込まれている」ことに気付きました。これは自然界の絶対的なメカニズムで、大宇宙の法律のようなものです。従って人類は、このメカニズムを変えようと思っても変えることは不可能です。

様々な植物の種を、人間がそれぞれ不適切な場に蒔いても、自然環境が適しなければ、仮に芽が出ても育たず、やがて消えてしまいます。これと同様で、争いや不幸が蔓延して人々が悲しむ世界は、この自然界には存在できないメカニズムがあります。

今の人類社会は明らかに上記メカニズムに反しており、昨今の地球は、破滅へ向かっていくように思えてなりません。

しかし自然摂理に沿うなら、その存在は自然界進化の流れに沿い、拡大と発展を続けるはずで、従って人類社会は、この自然摂理という科学的メカニズムを基礎に、地球規模の基本憲法を、例えば下記のように制定すべきと弊社では考えています。

**自然界には人間が悲しむことを許さないメカニズムが存在する
このメカニズムの元に、自然界に生存する自由意志を持つ人類は何人も
自分及び自分以外の者を不幸たらしめてはならない
且つ人類は
自分及び自分以外の人々の全てが
幸福感に満ちることを考え、行動しなければならない**

この実現には、量子生態学による上記メカニズムの存在を世界の科学界が検証し、自然界に厳然と作用していることを確認し、自然摂理の定義として確定する必要があります。しかし今現在、これまで量子生態学の研究をお願いした皆様は無視や拒絶で終始し、一般には量子生態学の存在を知る方は、ほぼ皆無です。そのために、ACSIRの資金を活用させていただき、ひとりでも多くの方に量子生態学の存在を知っていただこうと思い、寄贈を思いついた次第です。

今回のご連絡に当たり、寄贈先皆様のサイトを拝見し、弊社以上に、多くの方々が大変な思いをされていることを実感いたしました。

皆様のご苦勞が報われる日が来ることを祈念し、量子生態学が何らかの役に立つことを祈り、資料類を寄贈いたします。

以上、送付品のご査収を、よろしくお願いいたします。

寄贈品内容 各一部

- 1・量子生態学テキスト
- 2・量子生態学・遺伝子前駆分子論によるmRNAワクチンレポート
- 3・量子生態学用元素周期表（解説及び電子配位則表添付）

p s :

参考に、これまで量子生態学等をご案内した方々のリストを、添付いたします。

量子生態学による被曝現象の要旨

量子生態学は、あらゆる現象を電子移動だけで把握する学門です。

この視点による自然界を理解するために、最低限必要な要点を下記にご説明します。

少なくとも以下を押さえると、被曝の基本的な現象を理解しやすくなります。

1・量子生態学による、ものの成り立ち（テキスト26p～27p）

【隣り合う原子が同じ電子を共有すると、原子と原子に繋がりが生まれ、ものが成立する】

原子の繋がりがたは、大きく、共有結合、金属結合、イオン結合の3つです。

イオン結合はわかりにくいのでここでは省き、共有結合と金属結合について説明します。

①共有結合

隣り合う原子がそれぞれの電子軌道に「同じ電子を配置＝部分共有」して繋がる

②金属結合

金属塊という原子の集合領域内を「ひとつの場として電子が周回＝全体共有」して繋がる

2・量子生態学による、ものが壊れる仕組み（テキスト28p～30p）

【原子が共有する電子が無くなると、原子は繋がりが切れて、ものは壊れる】

量子生態学で見るものの成り立ちは電子の共有だけで捉えるので、ものが壊れるとは、共有する電子が無くなる状態、です。

①共有結合

原子が共有する電子がその位置から無くなると、原子の繋がりは切れてものは壊れる

②金属結合

金属塊の外側を走る電子が少しずつ外へ出て、金属塊原子内の電子が減ると、これに伴い原子間の繋がりが弱まり、やがてボロボロになり壊れる

例：鉄を思い出すとわかりやすいでしょう

鉄の塊は、外側にある電子が先に鉄塊外に出るので、外側から原子の繋がりが失われるため、鉄は外側からボロボロになります

3・量子生態学で見る原子には粒とエネルギーの状態があり、これに応じ自然界は3つの姿を持つ

（この説明の仕方が必要と気付いたのがここ一～二年で、テキストには表現されていません。類似説明

がテキスト123p～139pにあります、少し難しいかもしれませんが)

【自然界は、粒の世界、粒とエネルギーの世界、エネルギーの世界と3つが混在している】

原子には粒とエネルギーの状態があります。

この2つの原子の状態や繋がり方に応じ、自然界で原子達は、3種類の姿を作ります。
水を思い出すとわかりやすいでしょう。

水は、温度が約0℃以下は氷、約0℃～100℃は液体の水、約100℃以上になると蒸気になります。いずれも今の科学では同じ水で、氷も液体の水も水蒸気も全てH₂Oという分子構造でしか把握していません。

一方、量子生態学では、氷は粒の世界、液体の水は粒とエネルギーが混じった世界、蒸気はエネルギーの世界として捉え、3つの姿に応じて水分子の構造も変えて定義します。

また、水以外も、量子生態学は、同じように3つの状態を考えます。

金属では、これも鉄で考えるとわかりやすいでしょう。

金属塊の鉄は粒の世界、溶鉱炉の中の鉄はドロドロで液体の世界で粒とエネルギーの世界です。そして溶鉱炉の温度をどんどん上げると沸点に到達して気化、これがエネルギーの世界です。

人体も同じです。

人間という身体は大きくは粒の世界、人が亡くなり遺体を放置すると変化が起こりドロドロになったりボロボロになったりして粒とエネルギーが混じった世界に変わります。これがさらに進むと、やがて姿形は無くなり私たちは土に還るなどと表現しますが、これがエネルギーの世界に変わった状態です。

また火葬では、温度が融点や沸点に達しない骨や灰だけが残し、他は気化してエネルギーになります。

いずれも原子の存在する環境に応じて変化が起き、地球自然界ではこの3つの変化が、いつでもどこでも発生しています。

もういちど、生活の視点で見ましょう。

自然界の水は、水蒸気になってエネルギーとなり空に上っても、冷えたら液体になり雨として降ってきます。もし冬なら、さらに温度が下がると水たまりは凍り、粒になります。これが、水が3つの世界に変化する様子です。

鉄も、ボロボロになった鉄を溶鉱炉へ入れて溶かし、型を整えて固めると、見違えるような新しい鉄の塊になり、粒の状態に再生されます。

水も鉄も粒の時、私たちは「もの」として目で見たり触ることができます。このとき原子や原子の集りには、エネルギー的な要素はありません。

水や鉄が、液体やドロドロの時、私たちは「流体」という「もの」として目で見ることができですが、握りしめることが困難になります。このとき液体やドロドロの中には、粒の分子とイオン化分子やイオン化原子が混ざった状態です。イオン化分子やイオン化原子とは、+の電気や-の電気エネルギーの分子や原子のことで、粒という姿はありません。

水や鉄が全てエネルギー状態になると、もはや私たちは目で見ることにも触れることも困難になります。エネルギー状態になると、電子の繋がりが全て失われ、水や鉄を作っていた原子や分子はバラバラになり、原子レベルや最も小さな単位で地球に影響する分子レベルになります。このとき原子や分子の多くはイオン化し、電気的なエネルギーになっています。

こうして「粒」だったものが「エネルギー」に変わり、電気的なエネルギーの原子や極微分子が自然界に戻ると、再び新たな電子による繋がりが生まれ、新しい「もの」に生まれ変わり、粒の世界を作ります。

このように原子は、地球の温度環境に応じて、「粒・粒とエネルギー・エネルギー」と、3つの世界を作りながら、繰り返し繰り返し、様々なものに交替しながら、地球の営みを40億年以上続けています。

地球とは、原子がものになり、ものが原子に戻り、というグルグルを、粒とエネルギーの交替で循環しつづける世界だ、ということを知ってください。

ここでは詳細を省きますが、地球上で新しい電子による繋がりを作る仕組みがブラウン運動で、ほぼ水の中で起こされます。それ故に生命には水が必須になっています。

ちなみに温度以外では、酸などによりエネルギーの世界を作ることもあります。

4・粒・粒とエネルギー・エネルギー、この3つの世界を作るのは、電子や原子の持つ意識 (電子の記憶性、テキスト154p～155p)

【温度が変わり、それぞれの原子が記憶する条件に適合すると、電子は行動を起こす】

ここで再び、水を思い出しましょう。

水分子を作る水素原子と酸素原子は、自分が置かれた場所で温度などの環境変化を認識すると、自分が果たすべき内容を判断します。

自分は、粒になるべきか、粒とエネルギーになるべきか、エネルギーになるべきか、判断します。その後、果たすべきことのために電子移動という行動力を発揮します。

つまり、水素原子と酸素原子は、この環境で自分たちは、氷になるか、液体の水になる

か、蒸気になるか、考えて判断し、ものを作っているということです。

詳しくは省きますが、温度条件に応じ、水や鉄がいつも同じ変化を起こすことができるのは、原子達が意識を持つためではないか、と量子生態学では考えています。原子達は、様々な原子の集合条件を記憶しており、しかもそれぞれの条件変化に気づき、変化を認識し、状況を判断して行動する、という意識性を持つとしか考えられないのです。

この原子の意識性は、目に見えない何かが大宇宙を作ったときに原子に与えた、そう考えざるを得ないというのが、量子生態学の見解です。

そして、この意識性の中に、「自然界には人間が悲しむことを許さないシステムが組み込まれている」と、量子生態学では捉えています。

原子の意識性は、野上倫加の著書、「意識を持つ原子たちネクサス・A I が人間に変わる日」であらましを説明していますので、ご興味があればお読みください。

5・量子生態学で見える、電離現象

(被曝現象 テキスト83p～122p)

【放射線は、電離で電子を強制的に動かし、原子の意識を無視した破壊の世界を作る】

放射線には、 α 線、 β 線、 γ 線 等々色々ありますが、共通する作用は「励起」と「電離」です。量子生態学で見ると、大問題なのが、電離です。

電離は、電子を蹴飛ばす作用です。

放射線が、共有結合や全体結合を担う電子に当たると、この電子を蹴飛ばして、原子から離れてしまいます。するとその部分の原子は共有する電子が無くなり、結合が壊れます。しかも放射能の電離は、温度などの自然環境に関係なく電子移動を起こします。つまり、原子の持つ意識性を無視してしまうので、自然界の秩序を乱します。量子生態学で見える被曝は、このように把握します。

ところで原発事故のとき、鼻血を出した人がたくさん出ました。原子力工学や放射線医学の関係者は因果関係を否定しているようですが、量子生態学ではこれはおかしい見解だと考えています。

即ち、事故当時、飛散した放射性物質を呼吸で吸い込み、鼻の粘膜にひっかかって止まった場合、放射性物質から出た γ 線などの電離作用は周辺細胞の電子を蹴飛ばし続けます。すると細胞を作っていた原子は共有電子を失い続けますから、原子は繋がりを失い、細胞構造は破壊されます。鼻腔内の表面細胞が破壊されたら、鼻血が出るのは当然の現象です。

また、内部被曝では、呼吸や食事や他の様々な行為から放射性物質を体内に入れてしまい

ます。体内に入った放射性物質が流れる経路や辿り着く先は予測できませんから、様々な部位で電離を発揮し、様々な破壊現象が起きます。従って、一般の疾病のように共通の症状として定義することは不可能です。

ただし、ヨウ素が甲状腺に集まるように、放射性元素の個性を見極めると、どんな放射性元素がどの部位に集まりやすく、どんな影響を起こすか推測することは可能です。それは、様々な元素の持つ電子や電子軌道の個性とタンパク質類の相互作用を把握すれば見えてくるでしょう。しかしこの把握は、自然界を粒とエネルギーの世界として扱わない限り、説明できないであろうことを付記します。

さて、人体以外も同様です。

放射性物質を貯蔵する容器では、電離により、容器を作る原子の繋がりから電子がどんどん強制的に動かされます。従って結合破壊が促進され、通常より劣化は早まります。

でも、極端に放射能を怖がる必要は無いと量子生態学では考えています。

すなわち電離は紫外線など様々な酸化物が起こす酸化現象と同じです。つまり、酸化を防ぐ技術開発は、電離解消の技術開発と同じなのです。また電子移動は瞬間に作用させることが可能なので、量子生態学では、被曝は瞬間解消可能としています。

他の疾病も基本概念は同じで、全て電子移動により正常な環境に破壊が起こる世界です。つまり被曝解消のための電子移動技術の開発は他の疾病解消技術にも繋がり、場合により病気も被曝も一瞬で治す技術開発は、可能だと思います。

そして、自然界を電子移動だけで把握することは、人間も鉱物も区別しなくて良いということです。電子移動という同じメカニズムで地球上に存在するので、人間が生きているなら鉱物も生きていると考えることが出来ます。

この現象を、量子生態学では「鉱物代謝」と呼びます。

鉱物が生きているなら、人間同様に代謝をコントロールすることは可能でしょう。鉱物代謝を応用すれば、放射性物質を強制的に代謝させて処理できる、量子生態学ではそのように考えています。

おわりに・最後に温暖化について

量子生態学は、電子移動だけであらゆる現象を把握します。

自然界本来の電子移動を追求し、自然界に沿うための仕組みを把握できれば、原子力も、医療も、環境も、気象も、電気エネルギーも、全て同じ視点で、科学者はオールマイティで分野の区別無く研究することが可能になります。

最後に、今問題の温暖化について。

量子生態学によれば、温暖化の原因は、二酸化炭素などの温室効果ガスではありません。原因は、強制的な電子移動の増加、と考えています。

電子が移動するとき、自然界では熱が関与します。

例えばものを煮炊きするとき、具材に熱をかけます。これは熱変化で電子移動を起こし、具材を作る電子の共有を無くし、具材を壊す行為です。ですから、具材は柔らかくなり、煮えます。

逆現象も然りで、電子レンジは電磁氣的に電子移動を起こして熱を作り、加熱調理します。電磁調理器も同様です。

また微生物発酵では、熱が発生します。これは微生物が、電子移動を作ることで起きる現象です。人体も病気になると熱が出るのは、体内で病原菌等が体内細胞などを破壊して電子を動かすことで発生します。

しかし電子移動をコントロールすると、微生物発酵では発酵熱を出さないようにすることが可能ですし、人体が病気に感染しても熱が出ないようにできます。

全て、量子生態学提唱者らが、何度も現象を体験して得た結論です。

従って、量子生態学で見る温暖化は、地球上で強制的な電子移動が多発している結果と判断しています。

電子移動が多発している原因は、戦争による爆薬の使用、半導体の品質変化に伴う高電磁波の発生増加、スターリンクなど大量衛星の打ち上げと周回の増加、そして、人間の負の感情・悲しみや恐怖心の増加、です。

ロシアがウクライナ侵攻した年から、予想外に温暖化が進みました。憶測ですが、爆薬使用の増加、人々の恐怖心の増加が、電子移動を多発させて起こったと思わざるを得ません。

今、西側地域で戦争が広まりつつあります。もし量子生態学の考えが正しければ、地球はさらに電子移動が進み、高温化はさらに進むでしょう。そして自然災害は、益々増加すると思います。

でも、もし、社会が戦争を終わらせ、人々が幸せを感じる機会が増えれば、破壊作用を促す電子移動は激減します。すると温度上昇は止まり、温暖化が即座に解消する可能性もあります。

いずれにしても、世界中で一日も早く量子生態学を検証いただき、人類社会は協力して、自然界のメカニズムに沿った地球に戻す仕組みを整えて欲しいと思います。

以上